

平成30年度～令和元年度 社会教育委員会議 とりまとめ

1 協議のテーマ

「地域社会に参加できない人にどのようにアプローチしていったらよいのか？」

2 協議にあたって

(1) はじめに

本協議を行うにあたり、「地域社会に参加できない人」とは「参加意欲はあるが、行動のきっかけがつかめない人」と定義づけた。さらに、協議の視点を絞るために第1回協議では「シニア世代」を対象とし、第2回では「子育て世代」を対象とした。

(2) 協議の視点

協議は次の3つの視点で進めることとした。

- ① 「地域に関わりたい」という気持ちを行動に移すための後押しをする方法やきっかけがつかめない人へのはたらきかけで効果的な方策について
- ② 「地域に関わりたい」という気持ちを醸成するための「今日的つながり」について
- ③ 「きっかけがつかめない人に主体的に参加を促すための機会づくりや活動支援」について

(3) 地域活動について

地域活動の種類を広く次のように考えた。

- | | |
|------------------------|--------------------|
| ・健康、スポーツ（歩こう会、野球指導等） | ・趣味（俳句、音楽、ガーデニング） |
| ・生産、就業（シルバー人材センター） | ・地域行事（祭りの世話役等） |
| ・安全管理（交通安全、防犯パトロール等） | ・高齢者支援（家事援助、話し相手等） |
| ・教育、文化啓発活動（学習会、子供会育成等） | |
| ・子育て支援（保育手伝い、読み聞かせ等） | |

3 協議のとりまとめ

- (1) 「シニア世代」「子育て世代」ともに「地域に関わりたい」という気持ちを行動に移すための後押しをする方法やきっかけがつかめない人へのはたらきかけで効果的な方策を

- ① 市は、HP だけでなく、広報誌等の内容の充実を図り、「地域に関わりたい」という市民の気持ちを喚起するきっかけづくりに努める。
- ② 活動をとおして自己存在感や活動に向かう気持ちを高めていただくために活動の際には、一人ひとりが「役割」を自覚するように進める。
- ③ 各組織や団体では、人間関係や活動に向かう気持ちを醸成していくために、さまざまな活動において積極的な関わりを続けていく。

と 3 点にまとめた。

- (2) 「地域に関わりたい」という気持ちを醸成するための「今日的つながり」については

- ① 「シニア世代」には、自治会や老人会などの横の関係だけではなく、もう少しゆるやかな「必要な時につながる」関係が求められている。
- ② 市は、「シニア世代」のつながりを促すために、楽しさを感じるだけでなく知的好奇心を満たすことができる活動を検討していく。
- ③ 「シニア世代」は、「子育て世代」のつながりを深めるため、各組織や団体で積極的にアプローチを進めるとともに、必要なサポートに努める。
- ④ 「子育て世代」では、学校での活動に参加することで役割が意識され、「今日的つながり」を「より深いつながり」に昇華させることができる。

と 4 点にまとめた。

- (3) 「シニア世代」「子育て世代」ともに「きっかけがつかめない人に主体的に参加を促すための機会づくりや活動支援」については、

- ① 事業に関する情報提供とともに、活動をとおして自らメリットを感じていただくよう支援する。
- ② 各世代のニーズを的確に把握し、個人情報を保護しつつ、円滑にマッチングできるような環境整備を進める。
- ③ 運営者或いは地域のイベントをつくっていく側に立つという主体性を培うよう、運営側が企画や将来設計の工夫を進める。

という 3 点にまとめた。